

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 思永 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

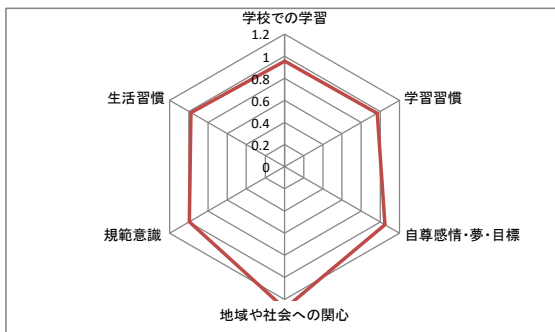
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.0	75	5.4	60	22.6	63	6.1	44	17.3	64
全国	24.3	76	5.5	61	23.8	66	6.6	47	17.9	66

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	全国の調査結果と比べて、無回答率が5ポイントを超えて下回った問題はないが、「文脈に即して漢字を正しく読む」問題では、無回答率が全国平均をやや下回っていた。さらに、古文の問題で、「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む」問題での平均無回答率は全国平均をやや上回っていた。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	古文の問題で、「古典の文章と現代語訳とを対応させて内容を捉える問題」では、平均正答率が全国平均をやや上回っていた。	下回っている
	努力が必要な問題	「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う問題」では、平均正答率が全国平均をやや下回っていた。また、「文章の読み取りに関する問題」では、平均正答率が全国平均を下回る問題が多く、「文章を読み取る力」に課題をもつ生徒が多いといえる。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	全国の調査結果と比べて、無回答率が5ポイントを超えて下回った問題はないが、「話すこと・書くこと」についての問題の正答率は全国と比べるとやや下回っている。相手に的確に伝わるようにあらすじを捉えて書く問題での無回答率はやや下回っていた。全体的に、内容を整理して書く、話の展開に応じて、必要に応じて質問する等、全体を捉えて考えて書く力をつけることが課題であると考えられる。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	文章とグラフとの関係を考えてながら内容を捉える問題では、平均正答率が全国平均を若干下回り、無回答率も若干下回っていた。	下回っている
	努力が必要な問題	文章の構成や展開について自分の考えをもつ問題では平均正答率が全国平均を下回っていた。質問の意図を捉える問題では平均正答率が全国平均を下回っていた。自分の考えを整理して述べる活動を取り入れた授業展開の工夫が必要である。	
数学A	全体的な傾向や特徴など	全国の調査結果と比べて、等式の性質を用いて目的に応じて変形する問題の平均正答率は全国平均を下回っていた。無回答率もやや下回っていた。また比例のグラフからyの変域を求める問題での平均正答率も下回っていた。関数の問題についての平均正答率も全国平均を下回っていた。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	負の整数を読み取る問題では無回答はなく、平均正答率は全国平均よりやや上回っていた。また、絶対値に関する問題での平均正答率もやや上回っていた。	下回っている
	努力が必要な問題	不等式、等式、方程式、比例の問題ではいずれも平均正答率が下回っていた。、数量や図形などについての知識。理解において課題が残る。	
数学B	全体的な傾向や特徴など	全国の調査結果と比べて、構想を立てて説明したり、証明問題等、自分で考えて記述しなければいけない問題においては、正答率、無回答率も下回っていた。根拠立てて記述するということが苦手意識を感じている生徒が多いといえる。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	3つの計算の順番を入れ替えたときの計算結果を数学的に表現する問題では、全国平均と比べると、平均正答率がやや下回り、無回答率も下回っていた。	下回っている
	努力が必要な問題	数と式の領域において、事柄が成り立つ理由を構想を立てて証明する問題では、平均正答率は全国平均を下回っていた。無回答率も下回っていた。日頃の授業の中で、自分で考えて相手に伝えるように表現する活動を取り入れる必要があるといえる。	
理科	全体的な傾向や特徴など	全国の調査結果と比べて、主として「知識」に関する問題では全国平均と比べて下回っていた。問題形式では、記述式の問題においては下回っていた。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	無脊椎動物と軟体動物の体のつくりの特徴に関する知識を活用できるという問題では、全国平均と比べると、やや上回った。無回答率は若干下回っていた。	下回っている
	努力が必要な問題	記述式問題では平均正答率を下回っていた。生物学的領域で1つの要因を変えたとその他にも変える可能性のある要因を指摘できるという問題での平均正答率と無回答率は全国平均と比べて下回っていた。思考力・表現力を高める活動を取り入れた授業展開の一層の工夫が必要である。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
学習においては、家庭学習を普段60分以上しているという項目において、昨年度の北九州学力状況調査の時より大きく上回っているが、全国と比べるとやや下回っている。また、授業中における話し合う活動では、自分の考えを深めたり広げたりできていると思うかという質問においても、やや下回っている。このことから、自分で考え、表現することができるよう、授業での活動の工夫や家庭学習の取り組み方についての指導がさらに必要であると考えられる。 学校行事で地域の方々の指導の下、地域の活動を取り入れているため、生徒の地域や社会への関心が強いようである。今後もこの取組は学校の伝統行事として続けていきたい。 自尊感情等において、肯定的な解答をした生徒の割合は昨年度よりも高く、また全国平均を上回っている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

各教科の授業の中で、生徒が自分で考え、表現する活動の時間を確保し、考えを伝え合う場面が必要である。また、文章をしっかりと読み、内容を読み取らせる活動も取り入れていくようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

学習した内容をもとに、「自分で考え表現するための課題を与え、家庭学習の習慣を身に付けさせることを継続する。PTA理事会や保護者会等を利用して、家庭学習の重要性としかたについて話をすることを継続する。